

温泉の成分、禁忌症、適応症及び入浴上の注意

成分

- 1 源泉名 あいきょう刈谷ハイウェイオアシス一号源泉
 2 泉質 ナトリウム-塩化物強塩温泉(高張性-弱アルカリ性-温泉)
 3 温度 源泉 36.0℃(気温 27.0℃)
 4 温泉の成分(検水 1kg 中の成分、分量及び組成)

(1) 陽イオン成分

成分	ミリグラム(mg)	ミリバル(mval)	ミリバル%(mval%)
リチウムイオン (Li ⁺)	0.9	0.13	0.05
ナトリウムイオン (Na ⁺)	5598	243.5	97.95
カリウムイオン (K ⁺)	15.1	0.39	0.16
マグネシウムイオン (Mg ²⁺)	22.1	1.82	0.73
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	51.5	2.57	1.03
ストロンチウムイオン (Sr ²⁺)	4.7	0.11	0.04
鉄(Ⅱ)イオン (Fe ²⁺)	1.6	0.06	0.02
陽イオンの総計 ①	5694	248.6	100.0

(2) 陰イオン成分

成分	ミリグラム(mg)	ミリバル(mval)	ミリバル%(mval%)
ふっ素イオン (F ⁻)	6.6	0.35	0.14
塩素イオン (Cl ⁻)	8569	241.7	97.26
臭素イオン (Br ⁻)	22.5	0.28	0.11
ヨウ素イオン (I ⁻)	7.6	0.06	0.02
硫化水素イオン (HS ⁻)	0.1	0.00	0.00
硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	2.5	0.05	0.02
硝酸イオン (NO ₃ ⁻)	1.0	0.02	0.01
炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻)	311.2	5.10	2.05
炭酸イオン (CO ₃ ²⁻)	27.0	0.90	0.36
陰イオンの総計 ②	8948	248.5	100.0

(3) 非解離成分

成分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)
メタけい酸 (H ₂ SiO ₃)	21.3	0.27
メタほう酸 (HBO ₂)	193.7	4.42
非解離成分の総計 ③	215.0	4.69

(4) 溶存ガス成分

成分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)
遊離二酸化炭素(遊離炭酸) (CO ₂)	0.1 未満	0.00
遊離硫化水素(H ₂ S)	0.1 未満	0.00
溶存ガス成分の総計④	0.0	0.00

溶存物質(ガス性のものを除く)①+②+③ 14.86g/kg

成分総計①+②+③+④ 14.86g/kg

(5) その他微量成分

成分	ミリグラム(mg)	成分	ミリグラム(mg)
アルミニウムイオン	0.02 未満	銅	0.01 未満
バリウムイオン	0.080	鉛	0.001 未満
総ヒ素	0.001 未満	総クロム	0.005 未満
総水銀	0.00005 未満	カドミウム	0.001 未満
マンガンイオン	0.041		

- 5 温泉の分析年月日 平成 26 年 5 月 26 日
 6 登録分析機関の名称及び登録番号 株式会社総合保健センター 岐阜県第 4 号

成分に影響を与える項目

- 1 加水の有無
温泉に水を加えておりません。
 2 加温の有無
入浴に適した温度に保つため、熱交換器によって加温し、温度調整をしております。
 3 循環利用・ろ過の有無
限りある温泉資源の有効利用と、浴槽の衛生状態を維持するために、循環ろ過装置を使用しております。
 4 入浴剤等添加の状況
なし。
 5 消毒処理の有無
衛生管理のため、塩素系薬剤を使用しております。

禁忌症、適応症及び入浴上の注意

- 1 禁忌症(浴用)
 (1) 一般的禁忌症
急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(とくに初期と末期)
 (2) 泉質別禁忌症
該当なし
 2 適応症(浴用)
 (1) 一般的適応症
神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進
 (2) 泉質別適応症
きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病
 3 入浴の方法及び注意
 (1) 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当たり1回程度とすること。その後は1日当たり2回ないし3回までとすること。
 (2) 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適当とすること。
 (3) 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり(湯さわり又は浴湯反応)が現れることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
 (4) 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
 ア 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
 イ 入浴中は、運動浴の場合は別として一般的には安静を守る。
 ウ 入浴後は、身体に付着した温泉成分を水で洗い流さない(湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい。)
 エ 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
 オ 次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とする。
 (ア) 高度の動脈硬化症
 (イ) 高血圧症
 (ウ) 心臓病
 カ 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。
 キ 食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。
 ク 飲酒しての入浴は特に注意する。

4 適応症、禁忌症決定年月日 平成 26 年 6 月 5 日